

吉見地区まちづくり構想

平成30年 1月

吉見地区まちづくり協議会

はじめに

吉見まちづくり協議会は、平成27年に吉見地区のつながりを深めるための環境整備、イベント・文化交流・防災の啓発活動を行い、よりよいまちづくりをするために発足しました。

協議会の中には、まちづくり部会、安全・健康・教育部会、イベント部会、吉母部会、蓋井島部会の5部会があり、それぞれが吉見地区をよくするために日頃から精力的に活動を行っています。

今回、まちづくり部会では、主に吉見駅裏の広大な遊休農地に着目して、どうすれば有効活用策が図られ住みよいまちづくりが出来るか議論して来ました。それは、吉見地区の人口が年々減少している現状より、これを食い止め「人口を増やすための方策」を主体とするものであります。吉見地区の良さを十分に発揮させるような“まちづくり”をするために、吉見地区の特性に関連したものに加え、地域住民の要望等も加味して、周辺都市部からの集客も見込めるような業種、地元商工業等の活性化、住宅団地、環境整備等の将来構想を策定したものです。

目 次

位置図	1-2
1. 吉見地区の現状と特性	3-4
2. まちづくり検討の経緯	5
3. 吉見駅裏まちづくり計画	6-7
4. まちづくりには欠かせないアクセス道路案の検討	8
5. 各ゾーン計画概要	9-10
6. 吉見地区まちづくり構想イメージ図	11
7. 今後の課題	12

位置図



縮尺 S=1/50,000



1. 吉見地区の現状と特性

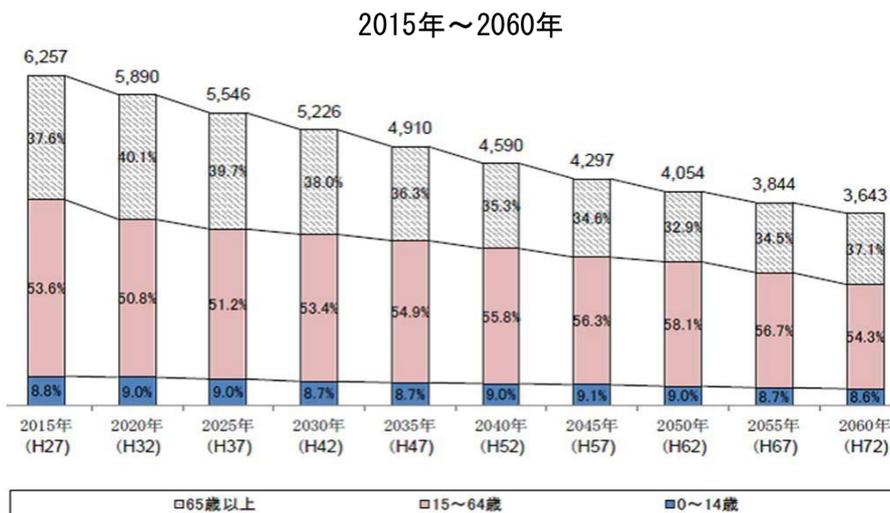
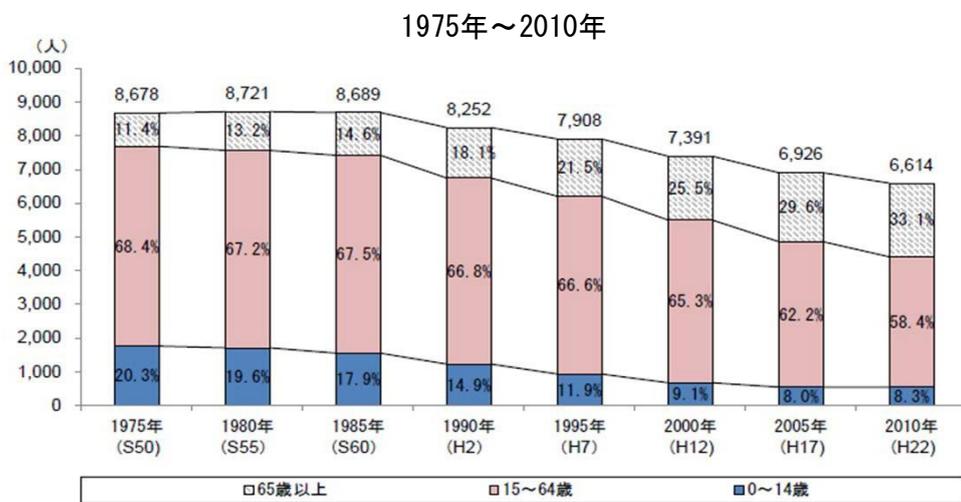
1-1 吉見地区の現状

吉見地区は下関市の北西部に位置し、日本海に面した風光明媚な自然豊かな所であり、主に農業、水産業が盛んな第一次、第二次産業が主体の地区である。

しかし、近年の高齢化と核家族により、図に示すように人口減少が進んでおり、このまま何もしなければ将来的に相当過疎化した町となる恐れがある。

この過疎化を防ぐためには、町内人口を増やし、人が定住するための施策として、便利で、住みやすく、周辺地域からも来てもらえる集客施設、住宅団地等を検討して行く必要がある。

■吉見地区の人口（資料 総務省 国勢調査）

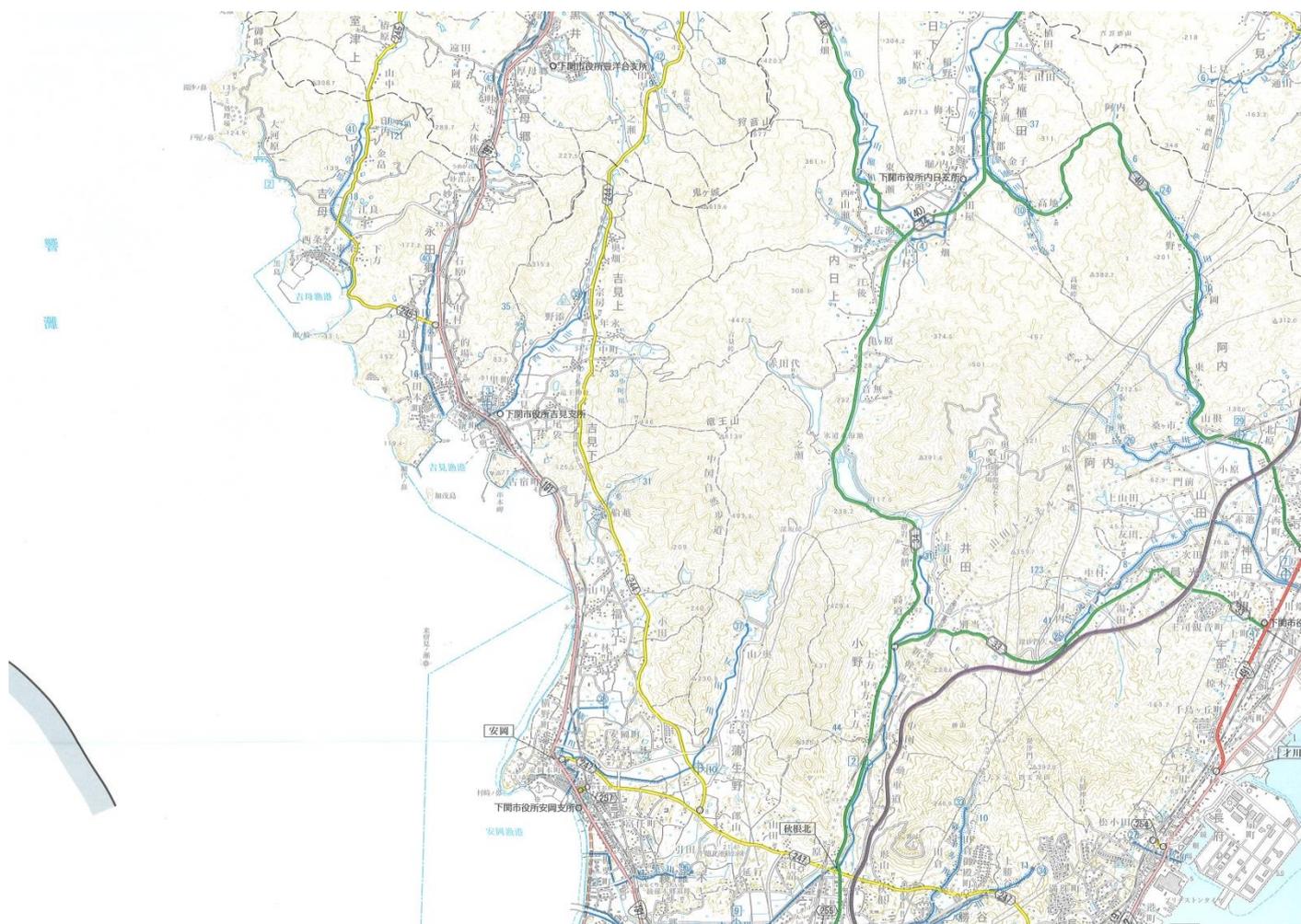


※1975年（昭和50年）には人口8,678人が、2015年（平成27年）には人口6,257人となり、将来の2060年（平成72年）には3,643人まで減少すると推移されている。

1-2 吉見地区の特性

吉見地区には人を集める魅力的なものが沢山あり、以下にその主なものを示す。

- ①全国的に有名な蒲鉾類（練り製品）の製造
 - ②新鮮な野菜・魚介類が豊富（農業、漁業がさかん）
 - ③温泉施設が身近にある
 - ④公共交通アクセスが至便である
- 開発予定区域は、駅から1分、バス停3分、新幹線・高速道路30分、
空港1.5時間(宇部、北九州)
- ⑤小・中学校が徒歩5～10分以内と近い
 - ⑥駅裏には平坦性のある広大な遊休農地がある
 - ⑦竜王山、吉見・吉母海水浴場、毘沙ノ鼻等のレジャー関連も多数
 - ⑧風光明媚な海岸線や夏場には駅裏付近でホテルの乱舞が見られる
 - ⑨水産大学校、海上自衛隊下関基地隊等、国の公共機関がある。



2. まちづくり検討の経緯

①平成27年11月4日に「まちづくり協議会」が発足

②「まちづくり協議会」に、まちづくり部会、安全・健康・教育部会、イベント部会、吉母部会、蓋井島部会の5部会を設立。

③「まちづくり部会」で住民、水産大学校、自衛隊、吉見中学校からアンケートを行った。

[アンケートのまとめ]では、にぎわいのある町、高齢者でも住みやすい町、若者が増え、駅裏には、商業施設等を誘致し活気のある町にする要望が多かった。(7. 参考資料)

④「まちづくり部会」で吉見中学校の生徒とワークショップの実施

吉見中学校の2年生を6班に分けてワークショップを行った。(下記状況写真)

⑤まちづくり計画実現までの花植えを実施

まず出来るところからと、「花植え」をボランティアと協力してスタート。

ワークショップ状況写真(吉見中)



3. 吉見駅裏まちづくり計画

3-1 課題の抽出

- ①町内人口の減少
- ②少子高齢化の到来
- ③地元産業の衰退・・・・・・蒲鉾関係企業の減少、店舗の減少
- ④駅裏の広大な遊休農地
- ⑤駅裏は市街化調整区域であり、都市計画の変更が必要。
- ⑥津波、高潮の対策が必要。

3-2 目標の設定

- ① 町民人口の増加対策
 - ・人口増加でなにが必要か
公共インフラ、公共機関、小・中学校の維持、町内の活気
 - ・どうすれば人口が増えるか
商業施設、企業、研究施設の誘致、住宅団地、花園による環境改善等
- ② 雇用の創出
商業施設等の実現による雇用の増大
- ③ 良好な環境の創出(整備)
 - ・環境を整備することにより、定住者、移住者の増加の可能性
- ④ 遊休農地の有効活用策
 - ・駅裏の広大で平坦な遊休農地を有効活用する

以上の目標のなかで、主体となる駅裏の整備について検討する。

3-3 駅裏の整備

① 商業複合施設の整備

- ・スーパーマーケット・・吉見の特性を生かす天ぷら、蒲鉾の実演・販売、新鮮な野菜・魚の販売（県内、北九州周辺からの集客及び一部全国対象にする）
- ・温泉・・既設の温泉の利用促進
- ・飲食店、書店・・スーパーマーケットを含む複合施設内に設ける

② 企業・研究施設等へのPR・誘致(公共交通へのアクセスがよい)

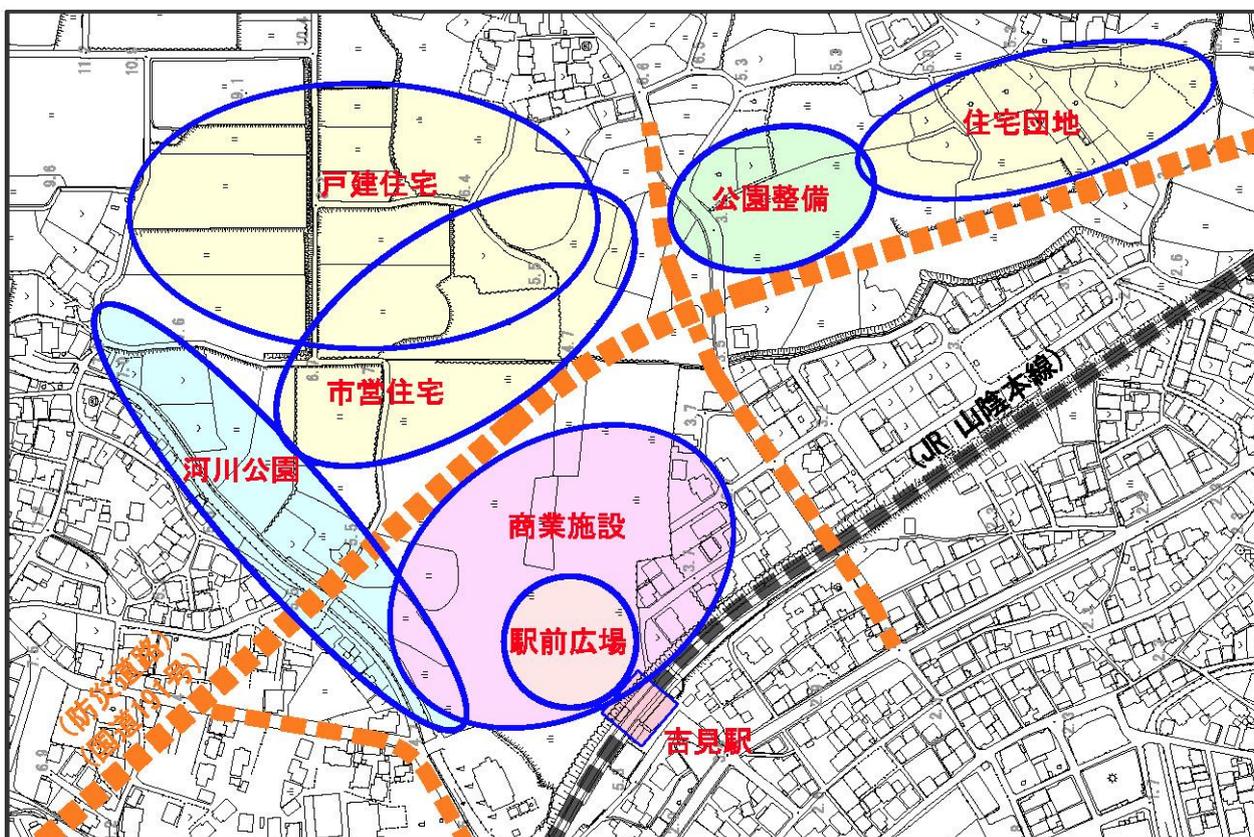
- ・高速道路・新幹線30分、空港1.5時間(北九州・宇部空港)
- ・IT企業等(軽薄短小型)の誘致・・・ネットによる業務の推進

③ 住宅団地(公共交通へのアクセス、小・中学校が近い)

- ・小、中学校まで徒歩5～10分以内と近いメリットを強調
- ・駅まで1分、バス停まで3分と非常に便利
- ・平坦性のある広大な土地と便利なアクセスから、PRの仕方次第で建設・住宅会社等の民間ベースの開発も十分可能性としてある

④ 花園・公園等

- ・環境をよくすることで住みやすい町となり定住、移住効果大

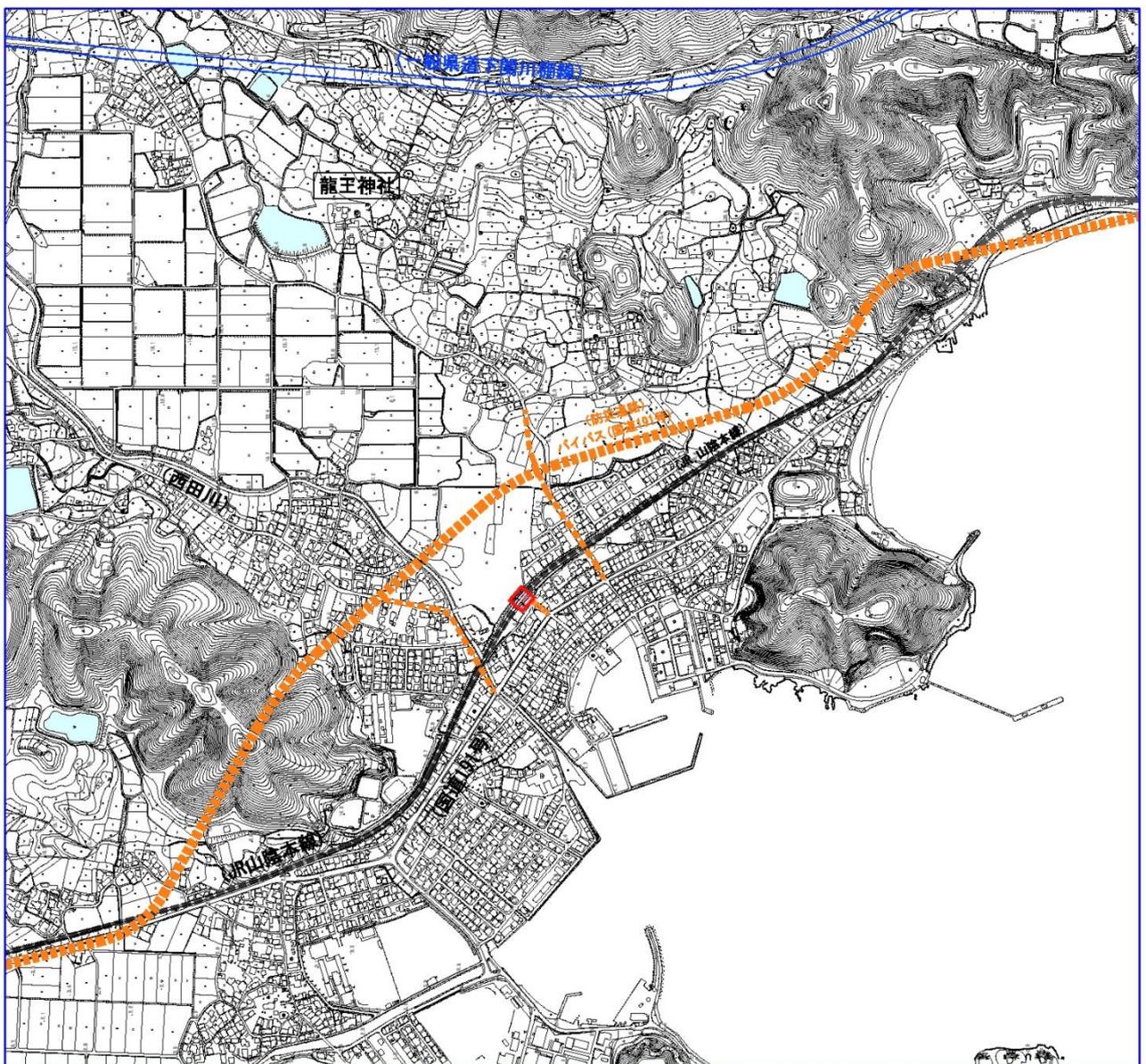


4. まちづくりには欠かせないアクセス道路案の検討

現在、吉見地区には国道191号とJR山陰本線及び県道が通っており、人を集客する交通手段はあるが開発ゾーンが駅裏であり、国道からのアクセスがJR線路と踏切（カマボコ型）が、ネックとなっている。このためスムーズにアクセス出来ない。

駅裏開発を行うには、主要道路より2つのアクセス道が無いと、交通の流れの処理がスムーズに出来ないことと、商業施設の防災と安全対策を行うことが出来ない。

よって、国道側と住宅街からのアクセスを考えると新しい道路の必要性が生じ、防災道路として是非とも設置が望まれる。



5. 各ゾーン計画概要

ゾーン名	細目	概要	備考
駅再開発ゾーン A=3.6ha	駅裏開発施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集客を目的として設置 (産直市場) ・ 農産物 …… クリーン農業により安心安全な農作物を提供 (福岡県の伊都菜彩の形式) ・ 水産物 …… 吉見、吉母漁港により新鮮な魚貝類を提供 ・ 特産物 …… 蒲鉾類提供 ・ 商業施設 …… コンパクトシティとしての商業施設 	
	公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病 院 …… 通院に不便な所を駅再開発地に集約する ・ 地域バス …… 高齢者の利便を図る ・ 公民館 …… 避難所として公民館を設置 ・ 図書館 …… 山陰地区集約の新刊、古書等を展示 ・ 駅裏広場 …… 駐車場（パークアンドライド）、ビジネスホテル等 ・ 駅前広場 …… 駐車場、駐輪場 	
住宅ゾーン A=9.9ha	戸建住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市部からの入居 ・ 若者の入居 (JR下関駅よりJRで23分のアクセス) 	
	市営住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水産大学、海上自衛隊の入居 (民間借上型とする) 	
	公園設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心安全な公園、イベント広場 	
	ホタル街道	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親水護岸整備 (西田川) 	

ゾーン名	細目	概要	備考
クリーン農業ゾーン	農産物	・農薬を大幅に減らし有機肥料を使用して吉見農産物のブランド化を図る	
	農地使用	・都市の方に農地（休耕地）を使用してもらう	
	農業体験	・イベントとして農業体験を行う	
教育ゾーン	水産大学	・大学との交流やイベント開催	
海上自衛隊ゾーン	海上自衛隊	・施設及び自衛艦の見学 ・自衛官との交流イベント開催	
海浜レジャーゾーン	吉見海水浴場	・施設と駐車場整備	
	海洋スポーツ	・ボート、ヨット、マリンスポーツ等	
	海の駅誘致	・ヨット、クルーザー等の泊地、休憩地	
	フィッシング施設	・現施設を整備する （国道に釣果掲示デジタル作成）	
	海浜遊歩道整備	・海水浴場から加工団地の間に遊歩道設置	
漁港加工団地ゾーン	水産加工団地	・加工団地の見学コース	
	花火大会	・突堤より花火開催	
	遊覧船施設	・吉見～吉母～蓋井島間遊覧船を運行	
温泉憩いのゾーン	温泉施設整備	・風呂、休憩所、食堂の整備 ・日本庭園の整備	
竜王山	竜王山登山	・標高614mの日本百名山に名が上がっている ・非常に登山者が多く、韓国、中国からも登山されている（キングドラゴンは名声も高く、海外からバスで月1程度来客） ・麓に龍王神社があり雨乞いの山、山岳信仰の対象となっている（創建紀元前2200年の由来等）	

7. 今後の課題

- ① 市街化調整区域であるため都市計画の変更が必要となる。
- ② 国道191号線からの進入口及び踏切が狭隘なため拡幅整備する必要がある。
- ③ 優良なテナントを確保する必要がある。(地域特性のある産直市場、食事、販売等)
- ④ 津波・高潮対策と合わせた、地域住民の避難場所も含む“まちづくり”が必要である。

